



ひつじ書房

おすすめ書籍のご案内

コード	シリーズ名	書名	編著訳者名	本体価格
1056		「させていただく」の語用論	椎名美智著	3,600
1037		日本語の乱れか変化か	金澤裕之・川端元子・森篤嗣編	3,800
782	日本語のテンス・アスペクト研究を 問い直す 第2巻	「した」「している」の世界	庵功雄・田川拓海編	4,200
992		[研究プロジェクト] 時間と言語	益岡隆志監修 定延利之・高山善行・井上優編	6,200
1071		全国調査による言語行動の方言学	小林隆編	5,000
1074		Linguistic Atlas of Asia	遠藤光暁・峰岸真琴・白井聡子・鈴木博之・倉部慶太編	28,000
1095		方言の研究 7	日本方言研究会	5,000
1059		「中納言」を活用したコーパス日本語研究入門	中俣尚己著	1,800
1088		アジアに広がる日本語教育ピア・ラーニング	協働実践研究会 池田玲子編	3,000
1090		場面とコミュニケーションでわかる日本語文法ハンドブック	中西久実子編 中西久実子・坂口昌子・中俣尚己・大谷つかさ・寺田友子著	3,600
1079		言えそうなのに言わないのはなぜか 構文の制約と創造性	アデル・E・ゴールドバーク著 木原恵美子・巽智子・濱野寛子訳	3,800
1029		認知言語学論考 No.15	山梨正明編	9,800
1076		言語学と科学革命	山梨正明著	3,200
1005		実験認知言語学の深化	篠原和子・宇野良子編	5,400
1048	未発選書 28	マンガ学からの言語研究	出原健一著	3,500
1000		知を再構築する 異分野融合研究のためのテキストマイニング	内田諭・大賀哲・中藤哲也編	3,600
1072		テキスト計量の最前線	左古輝人編	2,800
1003		大学が地域の課題を解決する	白石克孝・西芝雅美・村田和代編	3,600
1087		明日の授業に活かす「意味順」英語指導	田地野彰編	3,000
1089		これから研究を書くひとのためのガイドブック [第2版]	佐渡島紗織・吉野亜矢子 著	2,000
1108		自由研究 ようこそ！ことばの実験室（コトラボ）へ	松浦年男著	1,400
1028		統計で転ばぬ先の杖	島田めぐみ・野口裕之著	1,400
1085		ビジネス文書の基礎技術	石黒圭・熊野健志編	1,400

1078		中国現代文学 23	中国現代文学翻訳会編	2,000
1044	テキスト	ベーシック語彙意味論	岸本秀樹・于一楽著	1,700
1093	テキスト	ベーシックコーパス言語学 第2版	石川慎一郎著	1,700
1068	Hituzi Linguistics in English No.32	Biliteracy in Young Japanese Siblings	谷口ジョイ著	9,800
1069	Hituzi Linguistics in English No.33	The Pragmatics of Clausal Conjunction	長辻幸著	9,800
1070	Hituzi Linguistics in English No.34	A Cognitive Linguistic Approach to Japanese Agrammatism	井原浩子著	9,200
1022	言語学と言語教育 40	日本語教育の新しい地図	青木直子、バーゲルスキー・マッシュー編	5,000
1058	言語学と言語教育 42	外国語としての日本語の実証的習得研究	玉岡賀津雄編	5,000
1067	言語学と言語教育 43	日本語学習者による多義語コロケーションの習得	大神智春著	6,800
1096	言語学と言語教育 44	移住労働者の日本語習得は進むのか	吹原豊著	4,800
993	ひつじ研究叢書（言語編） 第160巻	認知言語学の最前線	児玉一宏・小山哲春編	9,800
1008	ひつじ研究叢書（言語編） 第162巻	日本語文法史の視界	高山善行著	6,400
1019	ひつじ研究叢書（言語編） 第172巻	連濁の規則性をもとめて	平野尊識著	4,800
1020	ひつじ研究叢書（言語編） 第173巻	語法と理論との接続をめざして	金澤俊吾・柳朋宏・大谷直輝編	6,000
1054	ひつじ研究叢書（言語編） 第175巻	テキスト語彙論	高崎みどり著	4,800
1057	ひつじ研究叢書（言語編） 第177巻	日本語複文構文の機能論的研究	田中寛著	8,800
1061	ひつじ研究叢書（言語編） 第178巻	日本語における短縮外来語の形成とその仕組み	文昶允著	5,000
1062	ひつじ研究叢書（言語編） 第179巻	壁塗り代換をはじめとする格体制の交替現象の研究	川野靖子著	5,800
1063	ひつじ研究叢書（言語編） 第180巻	環大阪湾地域におけるアクセント変化の研究	山岡華菜子著	6,800
1064	ひつじ研究叢書（言語編） 第181巻	述語と名詞句の相互関係から見た日本語連体修飾構造	三好伸芳著	7,000
1066	ひつじ研究叢書（言語編） 第183巻	コピュラとコピュラ文の日韓対照研究	金智賢著	7,300
1083	ひつじ研究叢書（言語編） 第184巻	現代日本語の「ハズダ」の研究	朴天弘著	6,700

■上記以外の書籍もご注文承ります。

■注文締め切り：2021年11月14日（日）まで。

■ご注文のしかた：以下のセールページをご覧ください。

<https://www.hituzi.co.jp/books/hituzieig2021.html>

■送料：660円

- ・2万円以上お買い上げの場合は、送料無料。1万円以上お買い上げの場合は送料330円。
- ・既刊と同時に、未刊の書籍をご注文（ご予約）の場合は、書籍が全て刊行された後にまとめてお送りします。

「させていただく」の 語用論

人はなぜ使いたくなるのか

椎名美智著

定価 3,600 円＋税 A5 判上製カバー装 304 頁

「させていただく現象」の謎を解く。「させていただく」を言われて怒れる人がいる一方で、「させていただく」の氾濫はとどまるところを知らない。なぜ人は使いたくなり、何が違和感を生むのか？ この問いに答えるべく、意識調査で許容と違和の境界を探り、コーパス調査で発話行為的観点から他の授受表現との勢力関係変化を探った。それらをゴフマン的枠組みから再解釈することで、授受表現に生じているシフトに対する洞察を得た。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1056-7.htm>

日本語の乱れか変化か

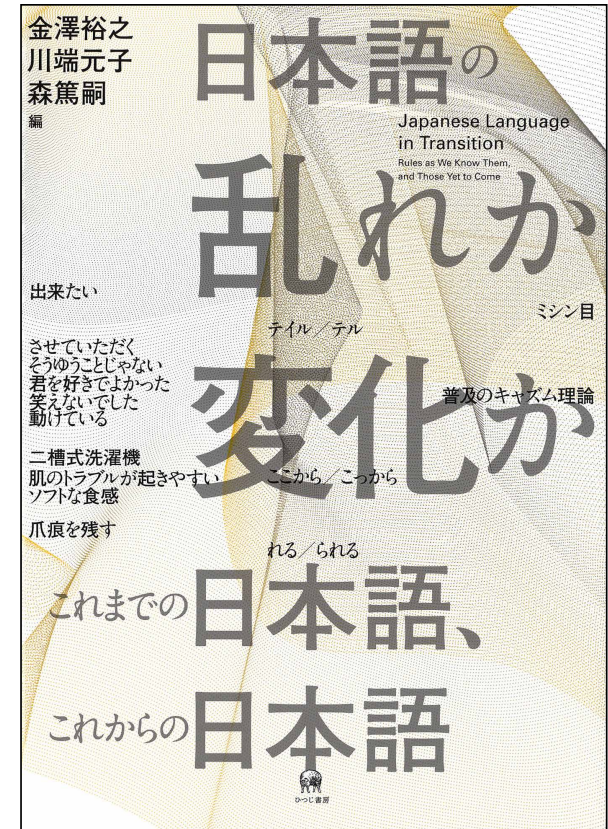
これまでの日本語、これからの日本語

金澤裕之・川端元子・森篤嗣編

定価 3,800 円＋税 A5 判並製カバー装 272 頁

ルールからの逸脱というとは一般にはネガティブに捉えられることが多い。しかし歴史や文化の実際の流れから見ると、それこそが新しい時代やトレンドを生み出す原動力となっていることも多い。日本語における過去や現在進行中の変化を多様な面から取り上げ、ことばの「乱れ」「正しさ」「変化」といったものを、動的な視点から見つめ直す試みの 1 冊。

執筆者：岡田祥平、尾崎喜光、金澤裕之、川端元子、金愛蘭、野田春美、橋本行洋、松田謙次郎、蓑川恵理子、森篤嗣、山田敏弘、横山詔一



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1037-6.htm>

日本語のテンス・アспект研究を 問い直す 第2巻 「した」「している」の世界

庵功雄・田川拓海編

定価 4,200 円＋税 A5 判並製カバー装 332 頁

シリーズ『日本語のテンス・アспект研究を問い直す』の第2巻。本巻では、「した」「している」に関する研究を集めた。「した」の形態論、副詞句のタイプとテンス形式、ムード表現としての「している」、史的研究から見た「している」および「した」、など、テンス・アспект・ムードに関わる「した」「している」の特徴を多面的に捉える。

執筆者：有田節子、庵功雄、岩本遠億、奥川育子、高田祥司、定延利之、田川拓海、高山善行、福島健伸、松田真希子、和田尚明

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-89476-782-9.htm>



[研究プロジェクト] 時間と言語

文法研究の新たな可能性を求めて

益岡隆志監修 定延利之・高山善行・井上優編

定価 6,200 円＋税 A5 判上製カバー装 352 頁

日本語文法研究の新たな展開を目指す共同研究プロジェクトの成果報告論集。日本語文法研究において最も実績のある研究課題の1つであるアスペクト・テンスについて、現代日本語共通語・文法史・対照研究の3つの観点から多角的にアプローチするとともに、アスペクト・テンス体系と談話・テキストにおける運用のインタラクションを探究する。

執筆者：益岡隆志、定延利之、高山善行、井上優、羅米良、羅希、小林ミナ、藤井俊博、西田隆政、石出靖雄、渡邊淳也、和田尚明、金善美

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-89476-992-2.htm>



全国調査による 言語行動の方言学

小林隆編

定価 5,000 円＋税 A5 判並製カバー装 356 頁

荷物運びを手伝ってもらいたいとしたら、どのような頼み方をするだろうか。おつりが間違っていることを注意するときはどうだろう。本書は、そうした言語行動の地域差を全国 1000 地点規模の調査によって明らかにする。目的別に分類されたさまざまな言語行動のデータを分析することで、この分野の方言学の基盤づくりをしようというのが本書のねらいである。

執筆者：井上文子、尾崎喜光、櫛引祐希子、熊谷智子、小林隆、佐藤亜実、椎名渉子、篠崎晃一、竹田晃子、津田智史、中西太郎、松田美香



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1071-0.htm>

Linguistic Atlas of Asia

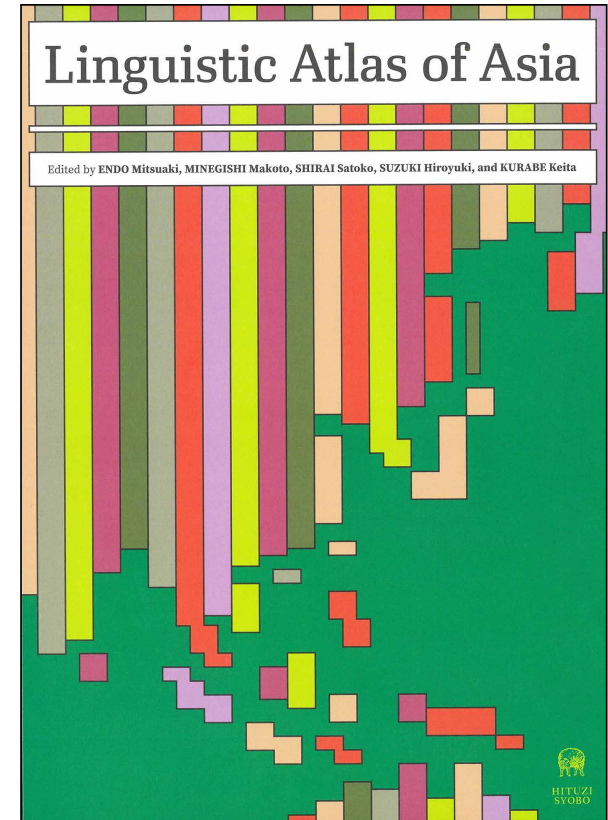
遠藤光暁・峰岸真琴・白井聡子・鈴木博之・倉部慶太編

定価 2,8000 + 税 A5 判上製カバー装 324 頁

アジア全域の全語族につき 2000 地点ほどの密度で「太陽・稲・乳・風・鉄・計数法（類別詞）・声調とアクセント・雨が降る」の 8 項目に対して言語地図を描画し、それぞれの語形の形成過程に関する解釈を集成した。24 名からなる各語族の専門家によるコラボレーションの成果である。項目ごとにアジア全域における概観が与えられ、マクロ・ミクロな地理分布をパノラマのように一望することができる。〈日本学術振興会助成刊行物〉★大判付録地図付き

執筆者：海老原志穂・遠藤光暁・深澤美香・福井玲・福嶋秩子・岩佐一枝・岩田礼・岸江信介・近藤美佳・倉部慶太・松本亮・峰岸真琴・長渡陽一・斎藤純男・清水政明・白井聡子・白石英才・鈴木史己・鈴木博之・田口善久・植屋高史・内海敦子・八木堅二・吉岡乾

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1074-1.htm>



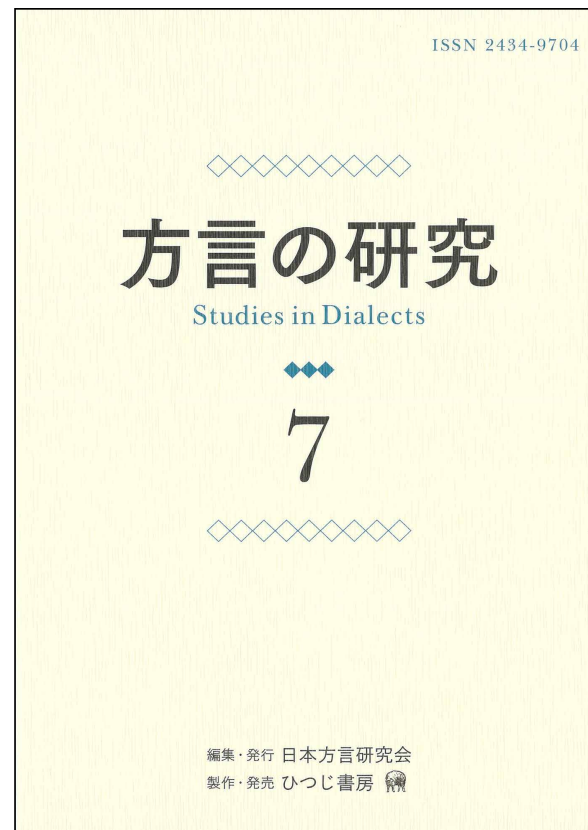
方言の研究 7

日本方言研究会

定価 5,000 円＋税 A5 判並製 128 頁

投稿論文 1 本、資料・情報 1 本、また、「解説」として「方言研究の方法」と「方言学を支えた人々」（各 2 本）を掲載する。最新の研究成果に加えて、コロナ禍における研究実践・研究支援活動の報告や方言研究の指針を具体的かつわかりやすく示すとともに、長く方言研究を下支えしてきた市民による方言学を紹介する。

執筆者：井上文子、加藤和夫、岸江信介、久保博雅、小西いずみ、田中ゆかり、二階堂整、西尾純二、灰谷謙二、半沢康



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1095-6.htm>

「中納言」を活用した コーパス日本語研究入門

中俣尚己著

定価 1,800 円＋税 A5 判並製 208 頁

コーパス検索アプリケーション「中納言」の初の解説書。3 部構成。第 1 部「検索してみよう」では「中納言」での検索の仕方や様々な機能について解説する。第 2 部「分析してみよう」では結果をダウンロードした後、表計算ソフトやテキストエディタを活用し、どのように結果を集計、数値を比較すれば良いかを解説する。第 3 部「研究してみよう」ではどのようにコーパス研究を行うべきか、また、レポート・論文にまとめる上での注意点を事例をもとに解説する。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1059-8.htm>

アジアに広がる日本語教育ピア・ラーニング

協働実践研究のための 持続的発展的拠点の構築

協働実践研究会 池田玲子編

定価 3,000 円＋税 A5 判並製 248 頁

「ピア・ラーニング（協働学習）」は今や世界的潮流となった。アジア各地では従来の教育の変革が大きな課題となっている。そこで、日本語教育協働実践研究者たちが、アジア地域でピア・ラーニングを理解し実践するための実践研究拠点の構築に取り組んだ。本書は、そのプロセスと成果を報告した本。日本語教育のみならず教育関係者に必読の書。



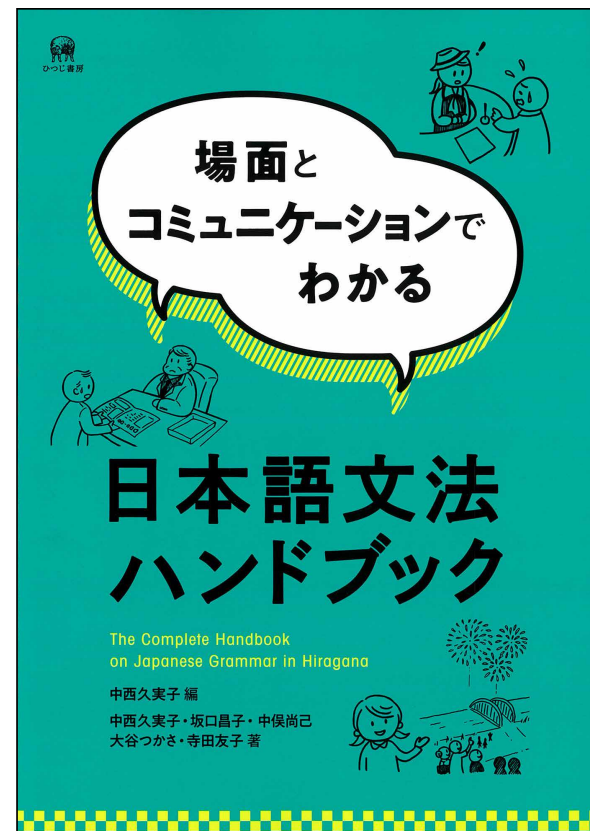
詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1088-8.htm>

場面とコミュニケーションで わかる日本語文法ハンドブック

中西久実子編 中西久実子・坂口昌子・中俣尚己・
大谷つかさ・寺田友子著

定価 3,600 円＋税 A5 判並製カバー装 484 頁

日本語教師として知っておくべき知識・技術を網羅した概説書。総ルビなので外国人日本語学習者の読解教材としても使える。文法知識，文法用語，主要な教科書との対応，母語話者の使用実態，誤用例，授業の指導案など専門知識がA1～B1程度の場面とコミュニケーションに結びつけて示されている。この本を持っていれば代表的日本語教科書の文法ガイドにもなる。国内外の日本語教師の必携書。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1090-1.htm>

言えそうなのに 言わないのはなぜか

構文の制約と創造性

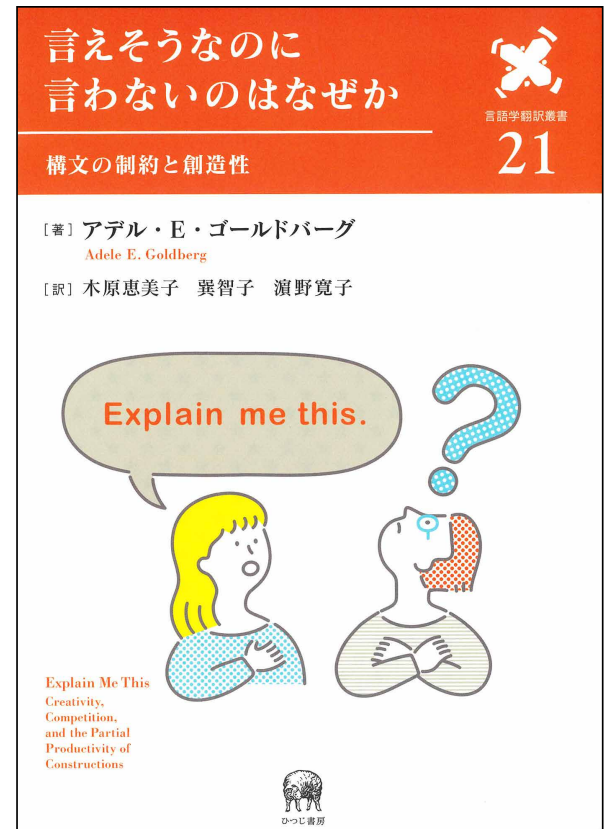
アデル・E・ゴールドバーグ著

木原恵美子・巽智子・濱野寛子訳

定価 3,800 円＋税 A5 判並製カバー装 288 頁

絶えず変化するコンテキストの中で私たちは構文を創造的に使用する。しかしその一方で「言えそうなのに言わない」表現が存在する。たとえば explain me this は言えそうなのに英語母語話者は言わない。創造的でありながら制約が多い言語を子どもや大人はどのように学習するのか。本書はさまざまな構文の実例や実験研究をわかりやすく解説しながら、この問いを探ってゆく。構文文法を初めて学ぶ読者にも薦められる一冊。原著：Adele E. Goldberg（著）Explain Me This: Creativity, Competition, and the Partial Productivity of Constructions

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1079-6.htm>



認知言語学論考 No.15

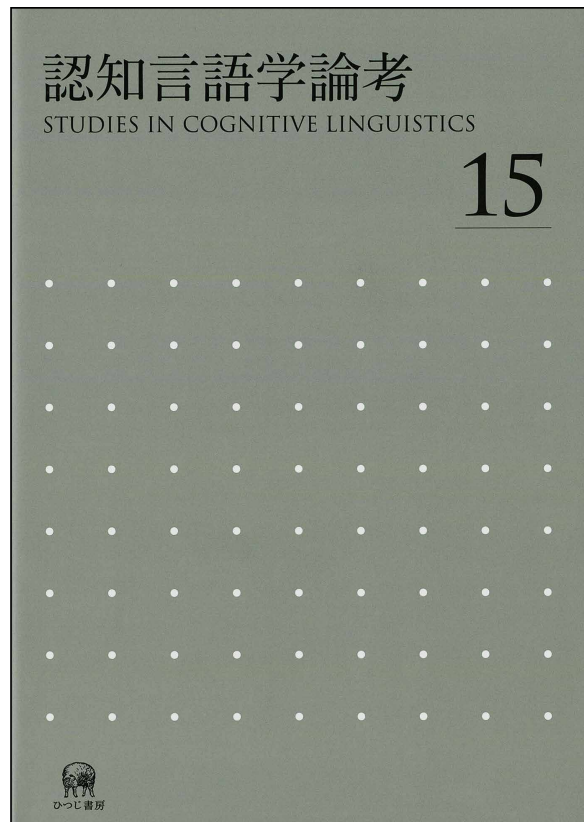
山梨正明編

定価 9,800 円＋税 A5 判上製カバー装 324 頁

認知言語学の最先端の論文を継続的に掲載するシリーズ第 15 巻。国内外の第一線の研究者の論文を掲載し、多岐にわたる認知言語学や関連する言語学の最新研究成果が交流する。

認知言語学の出現の背景と言語研究の新たな展望 山梨正明／身体投射 沖本正憲／時間の流れに関する認知言語学的考察 吉本一／《指示》の文法を考える 深田智／相互行為における指示の構造と指示表現の選択 平田未季・山本真理／商標言語学 五所万実／特定のインスタンスに成立するメトニミーの理解過程について 伊藤薫／命令・禁止表現から接続表現へ 朱冰・堀江薫／逆接「～ながら」の周辺事例的解釈 梶川克哉

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1029-1.htm>



言語学と科学革命

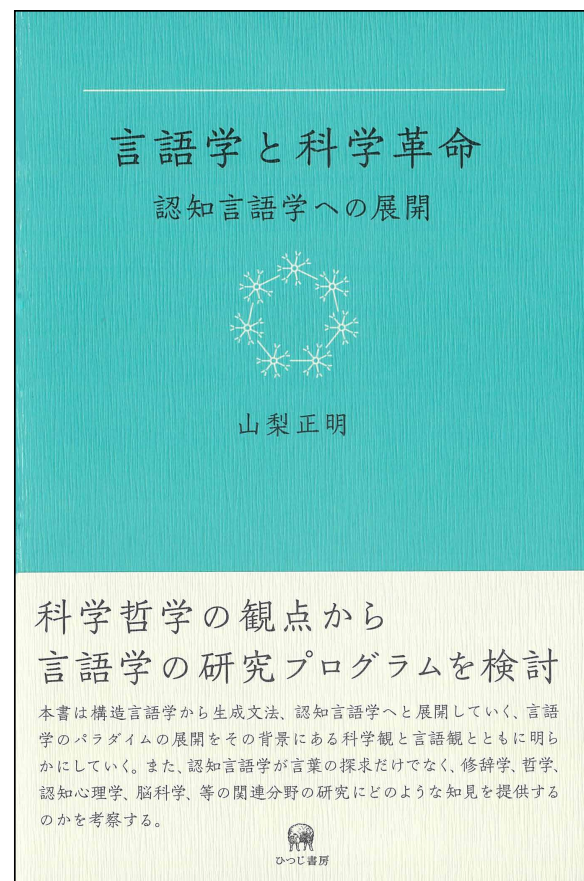
認知言語学への展開

山梨正明著

定価 3,200 円＋税 四六判上製カバー装 216 頁

本書は、科学哲学の観点から、言語学における新たな言語理論の展開のメカニズムの諸相を明らかにしていく。特に、生成意味論を母体として出現した認知言語学の科学的探求の方法を、科学哲学のパラダイム変換の観点から考察する。また、認知言語学の研究が、言葉の探求だけでなく、修辞学、哲学、認知心理学、脳科学、等の関連分野の研究にどのような重要な知見を提供するかを考察していく。言葉と知のメカニズムの研究への新たな指針となる一冊。

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1076-5.htm>



実験認知言語学の深化

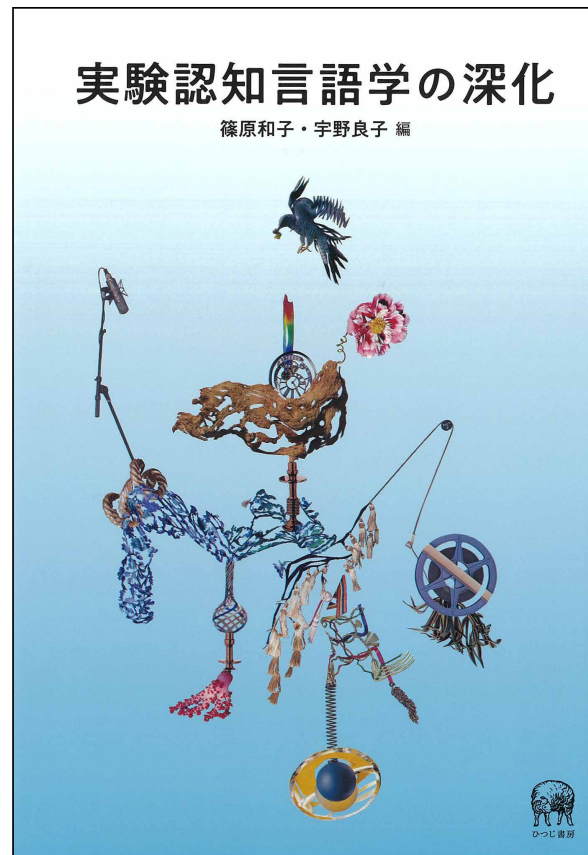
篠原和子・宇野良子編

定価 5,400 円＋税 A5 判上製カバー装 280 頁

2008 年、国際認知言語学会で「量的転回」が宣言された。以来 10 年以上を経て、日本では実験的手法への興味が広がりつつあるが、欧米と比べるとまだ発展の余地がある。本書ではこれらの概観、解説、事例研究に加え、Gibbs、Slobin など実験認知言語学発展の歴史に必読な論文の翻訳を掲載し、実験認知言語学のこれまでとこれからを考える。

執筆者：秋田喜美、Raymond W. Gibbs, Jr. (松中義大訳)、楠見孝、Bonnie McLean、松本曜、鍋島弘治朗、大谷直輝、佐治伸郎、Dan Slobin (櫻井千佳子訳)、菅村玄二、平知宏、宇野良子、吉川正人

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1005-5.htm>



未発選書 28

マンガ学からの言語研究 「視点」をめぐって

出原健一著

定価 3,500 円＋税 四六判上製カバー装 260 頁

認知言語学とマンガ学。一見、関連性がないように見えるが、実はどちらも「視点」がキーワードとなっている。認知言語学では主観的な視点と客観的な視点が主に議論されるが、マンガにはさらに多様な「視点」が存在する。本書ではマンガ学の視点概念を用いて、日本語のルビと英語の自由間接話法を中心に分析し、言語研究全般に援用できるよう新たな視点理論の提案を試みる。

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1048-2.htm>



知を再構築する 異分野融合研究のための テキストマイニング

内田諭・大賀哲・中藤哲也編

定価 3,600 円＋税 A5 判並製カバー装 268 頁

本書は異分野融合研究を実践するための方法論としてテキストマイニング（TM）に着目し、その基本的な仕組みや実際の研究事例を示したものである。基礎編では TM の理論や手法等を紹介し、実践編では言語学、情報学、政治学、社会学、看護学、環境学など多様な分野の新進気鋭の研究者が、それぞれの分野における TM の実践的な研究例を提示する。

執筆者：石田栄美、伊豆倉理江子、内田諭、大賀哲、加藤朋江、金岡麻希、川端亮、木下由美子、清野聡子、田中省作、土屋智行、中藤哲也、永崎研宣、畑島英史、秦正樹

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1000-0.htm>



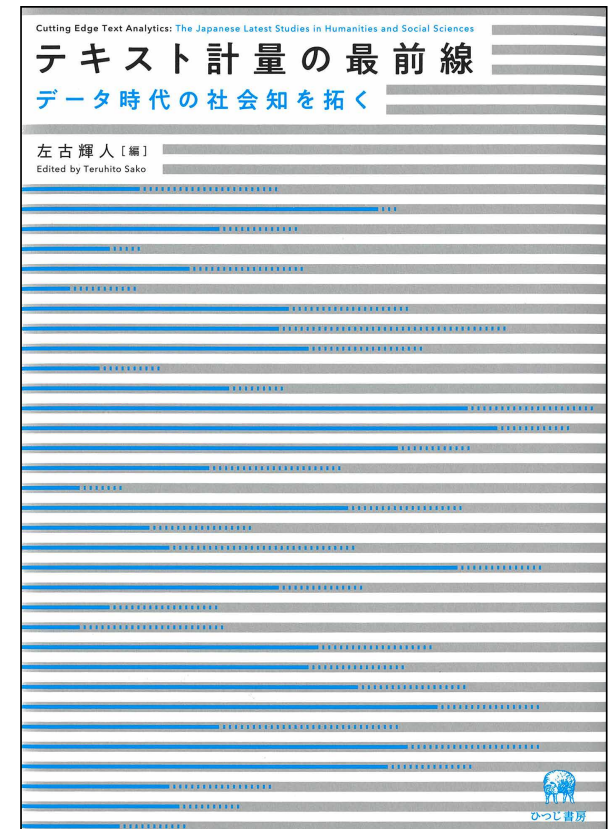
テキスト計量の最前線 データ時代の社会知を拓く

左古輝人編

定価 2,800 円＋税 A5 判並製カバー装 176 頁

近年、計読（テキストマイニング、テキストアナリティクス、計量テキスト分析、質的データ分析）は人文・社会科学の多岐にわたる領域で応用が進みつつある。本書は単なるハウツーではなく、具体的な課題に計読の諸技法を本格的に適用した研究成果を集めた。思想史・概念史、学説研究、ジャーナリズム言説の分析、研究者ネットワークの分析など、研究会での議論を通じた切磋琢磨を経て、現代日本の計読研究の規準を提示する。

執筆者：河野静香、左古輝人、鈴木努、橋本直人、樋熊亜衣、前田一歩



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1072-7.htm>

大学が地域の課題を解決する

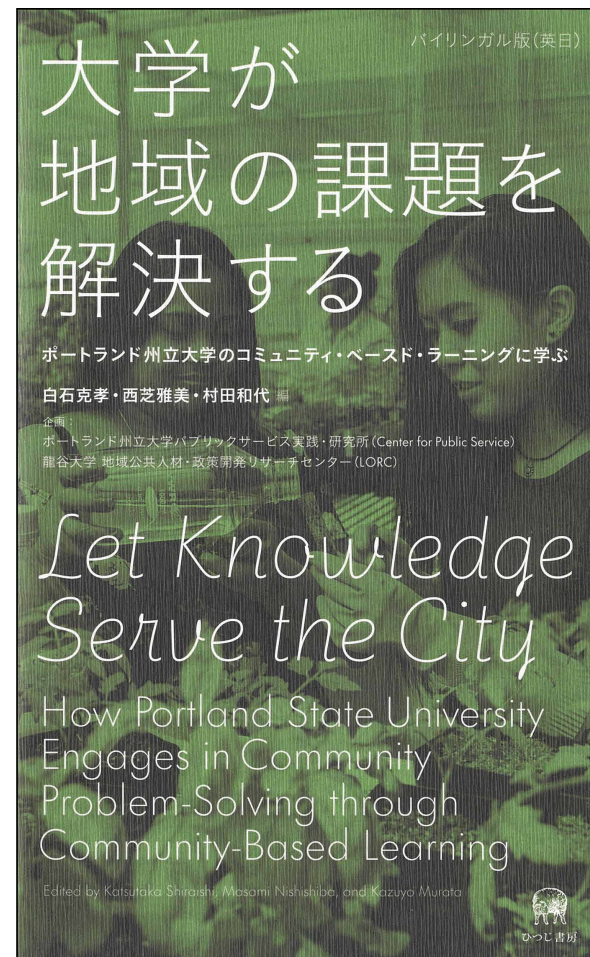
ポートランド州立大学の
コミュニティ・ベースド・ラーニングに学ぶ

白石克孝・西芝雅美・村田和代編

定価 3,600 円＋税 A5 判変型並製カバー装 288 頁

大学に求められる新たな役割とは。本書では、ポートランド州立大学で展開している地域連携型教育プログラムを多角的な視点から紹介し、地域変革のアンカーとしての大学のモデルを提示する。国内の先進事例として京都の産学官民連携で展開してきた地域公共人材育成にもふれながら、これからの大学の新しい役割について考える。バイリンガル版(英日)。

執筆者：ケヴィン・ケスカス、西芝雅美、スティーブン・パーシー、ジュディス・ラメイリー、サイ・アドラー、エイミー・スプリング、セリーン・フィッツモウリス、向野也代、ジェニファー・アルカズウィーニー、飯迫八千代、クリスティーン・クレス、レイチェル・サミュエルソン、シェリル・ゲルモン、白石克孝



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1003-1.htm>

明日の授業に活かす 「意味順」 英語指導

理論的背景と授業実践

田地野彰編

定価 3,000 円＋税 A5 判並製カバー装 328 頁

教育文法の最新理論「意味順」を活用した英語指導法の決定版、ついに登場。「意味順」を軸に英語指導の体系化をめざす。その理論的背景を、教育言語学、理論言語学、英語史、英詩研究の観点から検証するとともに、豊かな指導経験に基づいた授業への導入例を紹介する。中高から大学までの英語授業の未来を切り開く教師や研究者にとって必読の書。執筆者：田地野彰、金丸敏幸、川原功司、高橋佑宜、笹尾洋介、奥住桂、藤木克哉、山田浩、佐々木啓成、村上裕美、加藤由崇、渡寛法、桂山康司

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1087-1.htm>



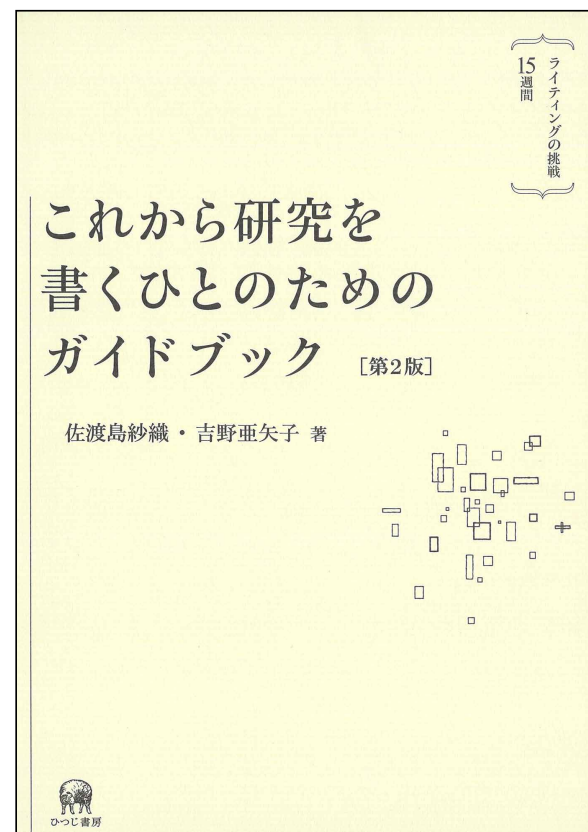
これから研究を書くひとのための ガイドブック [第2版]

ライティングの挑戦 15 週間

佐渡島紗織・吉野亜矢子著

定価 2,000 円＋税 A5 判並製カバー装 274 頁

ライティングが専門でない、高校、大学、大学院の教員が使える、「書き方」と「研究方法」の指導テキスト。2008 年に刊行した初版を改訂、時代に合った論文執筆へといざなう。学生の自習用としても充実している。主に人文社会科学系の領域向き。〔文章編〕では「思考を整理して、分かりやすく、科学的に」伝えるための技能を学ぶ。〔論文編〕では文献研究、実証研究の一連の流れを追って、テーマの設定から論文の評価まで段取りを解説。授業で使える練習問題やアクティビティーが豊富。情報満載のダウンロードデータも用意している。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1089-5.htm>

自由研究 ようこそ！ ことばの^{コトラボ}実験室へ

松浦年男著

定価 1,400 円＋税 A5 判並製カバー装 152 頁

言葉の仕組みや特徴の調べ方を小学生に向けて解説。自由研究のガイドとしても、調べ学習の参考資料としても使える。内容は、3つのワーク——①考える（「隠れた「っ」を探せ！」・「は」と「が」はどう並んでる？」）、②作る（「漢字だけ文を書いてみよう」）、③調べる（「世界のことで「日本」は何と呼ぶのか？」・「手話のことを調べよう」）で、言葉の楽しみ方がいろいろな角度から分かるよう工夫されている。



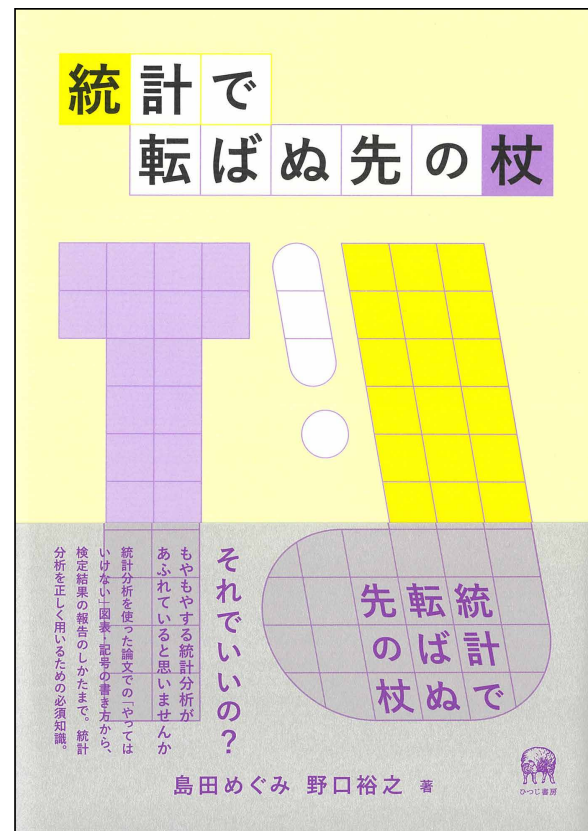
詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1108-3.htm>

統計で転ばぬ先の杖

島田めぐみ・野口裕之著

定価 1,400 円＋税 A5 判並製カバー装 128 頁

学術論文においても、統計手法の基本的な誤りを含むものが少なからずある。そこで本書では、統計手法を用いる時に気をつけるべきこと、今まで統計の書籍で取り上げられてこなかった「やってはいけない」ことを、特に日本語教育分野を例にまとめた。グラフ・表からサンプル数の考え方まで、すぐに役立つポイントや注意点を広く取り上げている。ウェブマガジンでの人気連載に、例や項目の大幅な加筆をして書籍化。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1028-4.htm>

ビジネス文書の基礎技術

実例でわかる「伝わる文章」のしくみ

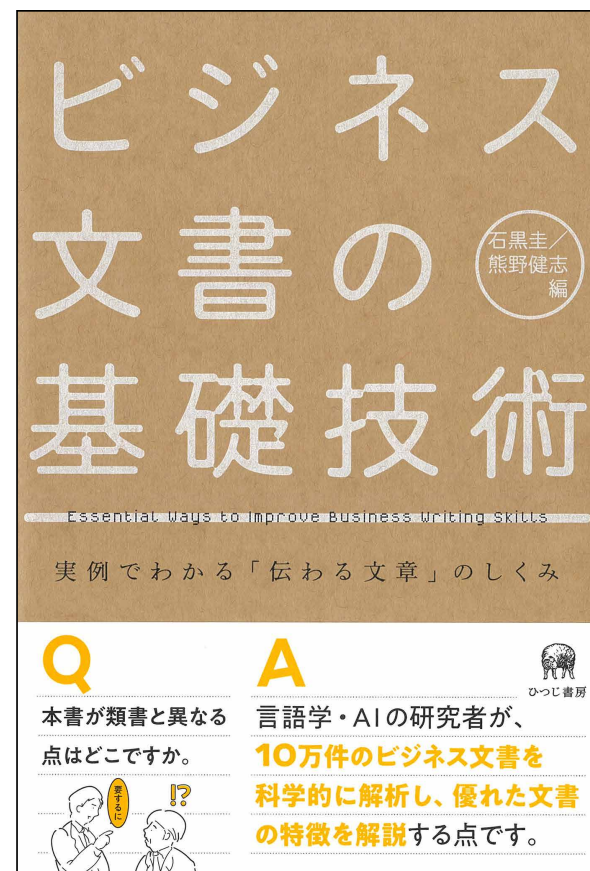
石黒圭・熊野健志編

定価 1,400 円＋税 四六判並製カバー装 208 頁

ビジネス文書の書き方を見よう見まねで学ぶ時代は、もはや過去のものとなった。本書は、ビジネス文書のコーパスから豊富な具体例を抽出、それを言語学的な観点から丁寧に分析し、優れた文書の特質を明らかにした新しいタイプの実用書である。就活中の学生や企業に勤めたばかりの新入社員、企業の日本語研修担当者やビジネス日本語教師、いずれにもオススメ。

執筆者：青木優子、浅井達哉、井伊菜穂子、石黒圭、井上雄太、岩崎拓也、熊野健志、佐野彩子、鈴木英子、田中啓行、布施悠子、アンドレイ・ベケシュ、蒙韞、柳瀬隆史、横野光

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1085-7.htm>

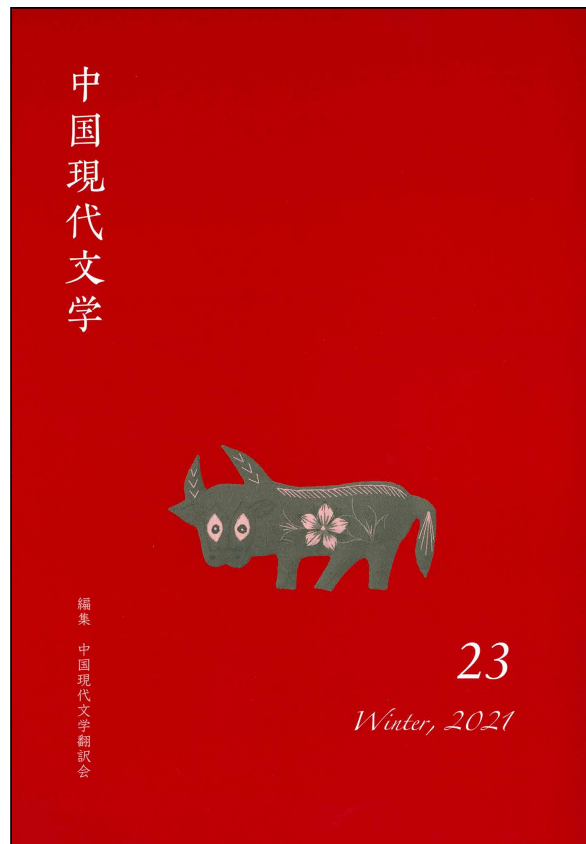


中国現代文学 23

中国現代文学翻訳会編

定価 2,000 円＋税 A5 判並製 226 頁

現代中国の文学作品を翻訳・紹介する『中国現代文学』の第 23 号。
蔣一談「発生」（取り壊される胡同と孤独な老人に訪れた“発生”とは）、
普玄「生・一枚の紙切れ」（生まれようとする赤子と老婆が交わす命の秘密）、
陳応松「カケスはなぜ鳴くか」（断崖の文字に導かれる一人の農民の運命）、
何玉茹「鋤を担ぐ女」（社会にも家庭にも居場所のない農婦の葛藤）などを掲載。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1078-9.htm>

ベーシック語彙意味論

岸本秀樹・于一楽著

定価 1,700 円＋税 A5 判並製カバー装 144 頁

語彙には歴然とした体系性がある。本書は、語彙のこのような体系的な側面を特に意味的な観点から解説する。語彙の体系は、語の形態・音韻・意味に及び、日常的な表現を中心に具体例を交えながら、これらの体系に関して基本的な事実とそれを説明する規則や原理を紹介する。本書を読み終えると、語彙の意味がどのように研究されてきたかについておよその方向性をつかむことができ、日常的な語彙の中に潜む日頃気がつかない法則性に迫ることができる。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1044-4.htm>

ベーシック コーパス言語学 第2版

石川慎一郎著

定価 1,700 円＋税 A5 判並製カバー装 288 頁

初版刊行より約 10 年を経て、最新情報を取り入れ内容を大幅更新。第 2 版刊行。コーパス言語学 (corpuslinguistics) は、英語においては 1990 年代以降、日本語においては 2000 年代以降、それぞれ急速な進展を見せ、現在、言語や言語教育に関わる幅広い研究分野に大きな影響を及ぼしている。本書は、英語コーパスと日本語コーパスの両者に目配りしつつ、初学者を対象に、コーパス構築の理念やコーパスを生かした言語研究の方法論について平易に解き明かすことを目指す。

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1093-2.htm>



Hituzi Linguistics in English No.32

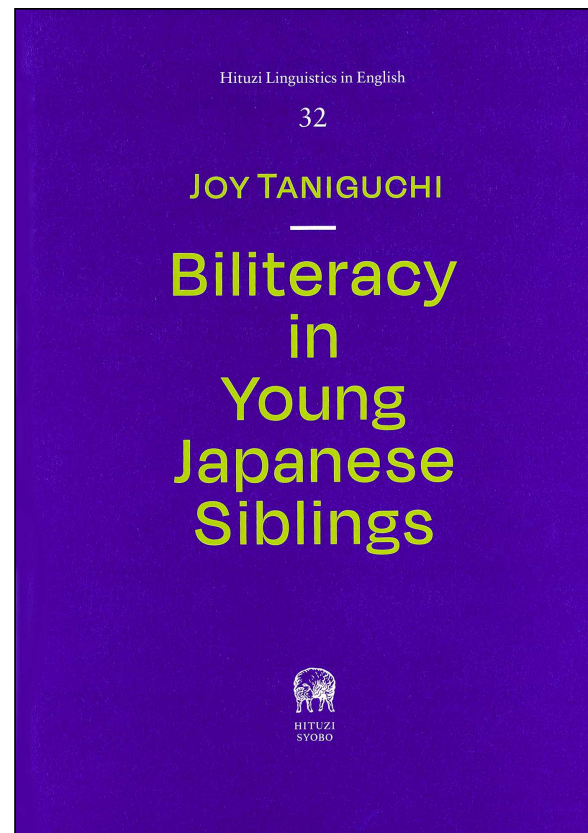
Biliteracy in Young Japanese Siblings

谷口ジョイ著

定価 9,800 円＋税 菊判上製カバー装 208 頁

本書は、海外生活により複言語環境にあった日本語を母語とする子どもの第二言語能力が、帰国後どのように変化するかを、長期にわたり質的に記述したものである。帰国児童が海外で身につけた英語の能力を、リテラシーという観点から捉え、兄弟姉妹とその家族を継続的に調査、観察することで、保護者の意識、子どもたちの日常的なリテラシー活動、人的ネットワークなど子どもたちを取り巻く社会的要因について明らかにする。

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1068-0.htm>



Hituzi Linguistics in English No.33

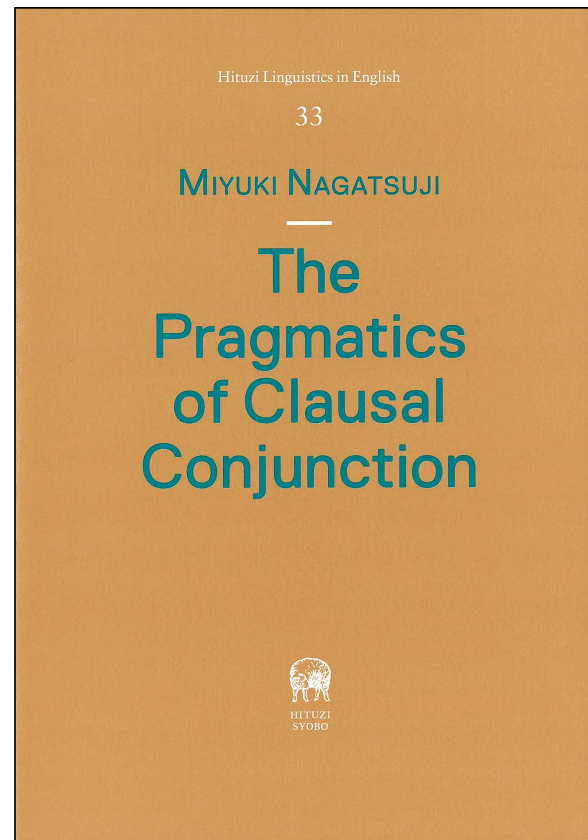
The Pragmatics of Clausal Conjunction

長辻幸著

定価 9,800 円＋税 菊判上製カバー装 178 頁

本書では、日英対照の視点から、節連言構造の解釈メカニズムの解明とそのモデル化により、当該現象の全体像における核心部を明らかにする。節レベルの要素を等位的な接続表現でつなぐ節連言構造として、英語の and 連言文とそれに対応する日本語の複数の構造を認知語用論の枠組みに基づいて分析する。そのうえで、節連言構造の解釈に貢献する根本的な特性を抽出し、当該現象を統一的かつ包括的に説明できる新たなアプローチを示す。〈

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1069-7.htm>



Hituzi Linguistics in English No.34

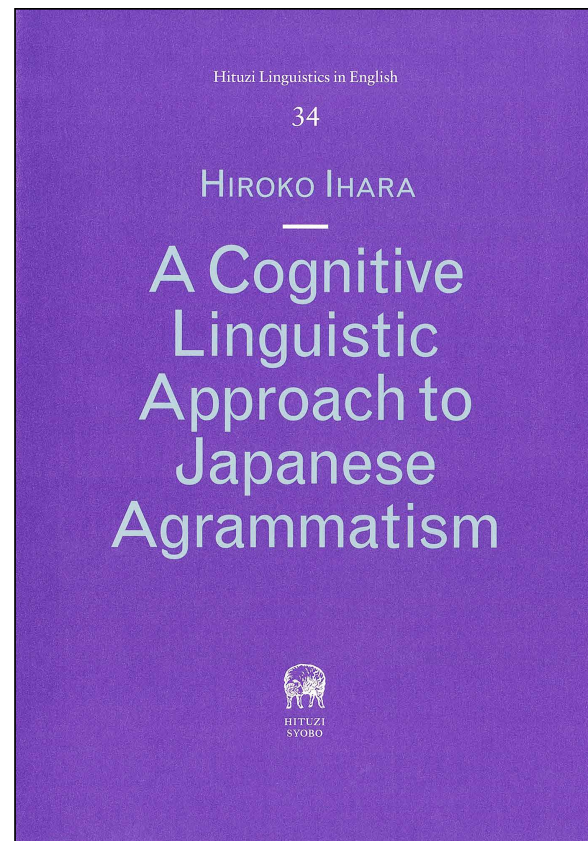
A Cognitive Linguistic Approach to Japanese Agrammatism

井原浩子著

定価 9,200 円＋税 菊判上製カバー装 154 頁

本書は日本語の失文法に見られる助詞「が」、「を」、「に」、「から」の誤用について、主に授受動詞や受動文を用いた産出実験結果に基づき、認知言語学の視点から説明を試みる。また、それらと類似した幾つかの現象（子供の言語獲得過程で見られる助詞の誤用、口語体における助詞の省略、健常者の言い誤りに見られる助詞の誤用）を取り上げ、失文法の場合と比較することから見いだせる共通性と相違が何に起因するのかを考察する。

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1070-3.htm>



シリーズ言語学と言語教育 40

日本語教育の新しい地図

専門知識を書き換える

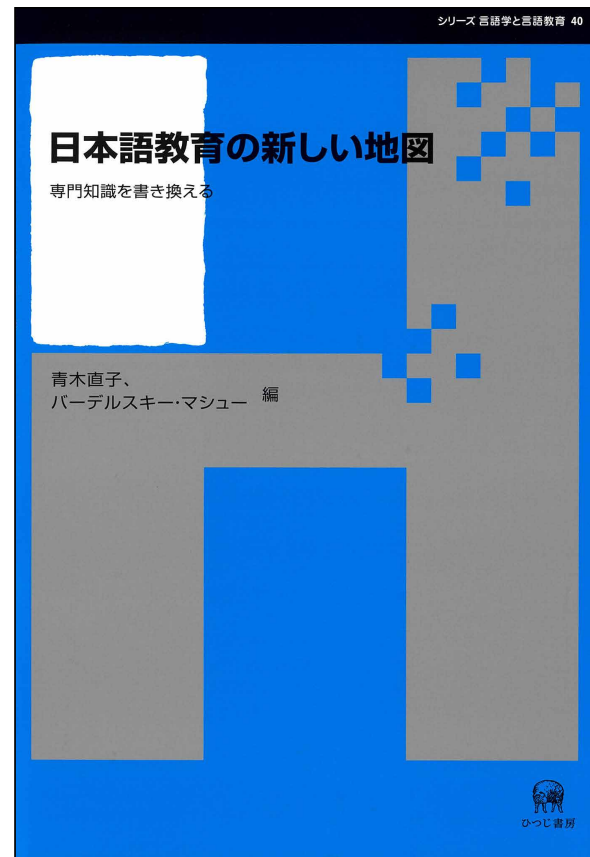
青木直子、バーデルスキー・マッシュー編

定価 5,000 円＋税 A5 判上製カバー装 340 頁

国境を越えた移動の急増とインターネットとモバイル技術の普及により、日本語学習のあり方が大きく変化した。学習者の役に立つには、日本語教師にはどのような専門知識が必要か。本書では言語と学習についての従来の常識を問い直し、グローバルな視点から新たに教師教育を考え直す一冊。

執筆者：青木直子、バーデルスキー・マッシュー、リー・ウェイ（翻訳：井上エイミー）、百済正和、義永美央子、西口光一、マーリー・ギャロルド、宇塚万里子、難波康治、ケリー・カーティス（翻訳：富田キアナ）、宮原万寿子、八木真奈美、入江恵、中山亜紀子、柴原千佳、クラムシュ・クレア、川嶋恵子、中井好男、脇坂真彩子、欧麗賢、濱川祐紀代、瀬尾悠希子、末吉朋美

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1022-2.htm>



シリーズ言語学と言語教育 42

外国語としての 日本語の実証的習得研究

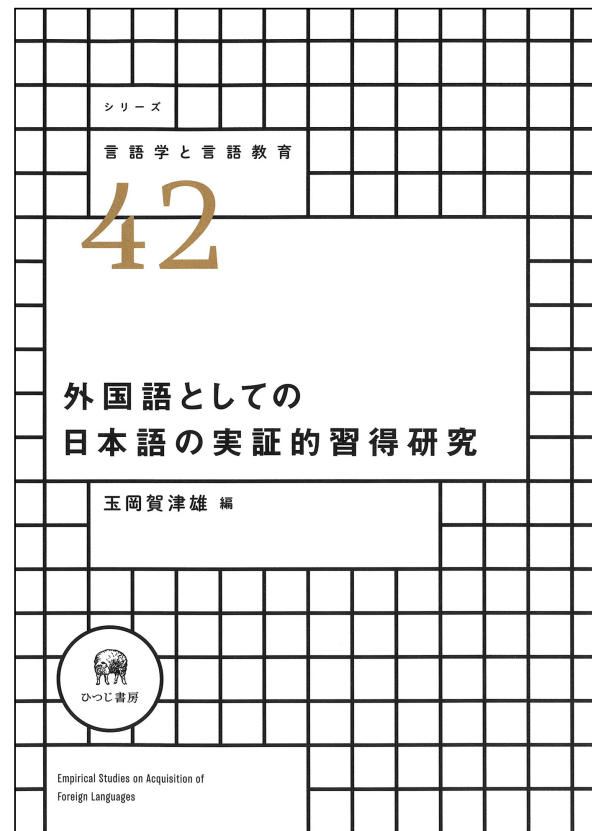
玉岡賀津雄編

定価 5,000 円＋税 A5 判上製カバー装 208 頁

これまで日本語や外国語の習得研究は、事例を使った「直感」的な研究が多かった。しかし、特定の表現だけで現象を説明しようとする、視点が偏りがちになる。そこで本書では、「直感」で推論された仮説を、コーパス、テスト、実験などで集めたデータを統計的に解析して「実証」するというアプローチの研究を、詳細な解説を含んで8つ掲載した。

執筆者：王蕾、斉藤信浩、張婧禕、初相娟、早川杏子、母育新、毛文偉、大和祐子

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1058-1.htm>



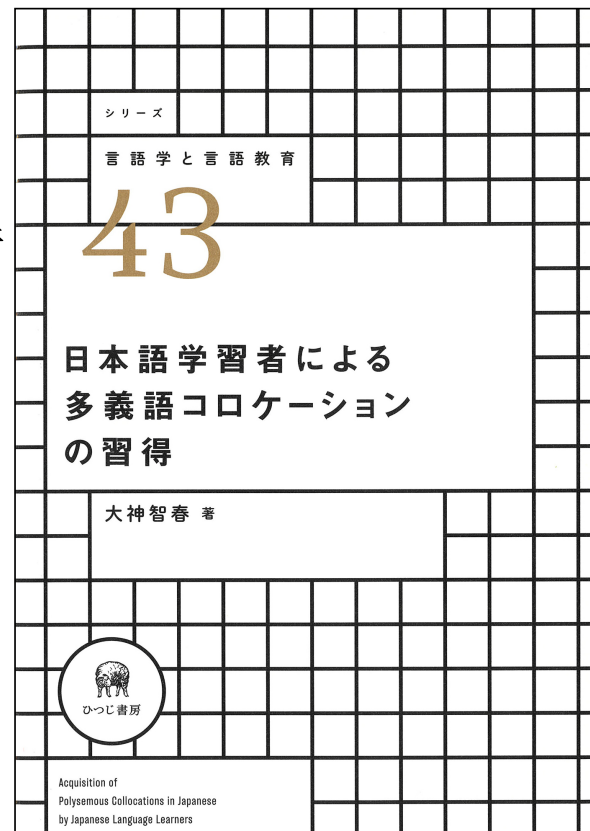
シリーズ言語学と言語教育 43

日本語学習者による 多義語コロケーションの習得

大神智春著

定価 6,800 円＋税 A5 判上製カバー装 280 頁

本書は、学習者が多義動詞「とる」を中心語とするコロケーションの習得過程において、どのような中間言語を形成しているか解明することを目的とした。研究に当たっては、学習者の中間言語を典型化、一般化、差異化の観点から複合的に捉えることを試みた。また、研究結果を日本語教育のコロケーション教材開発に活かすことを目指し、教材作成過程における留意点や練習問題の在り方等を提言した。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1067-3.htm>

シリーズ言語学と言語教育 44

移住労働者の 日本語習得は進むのか

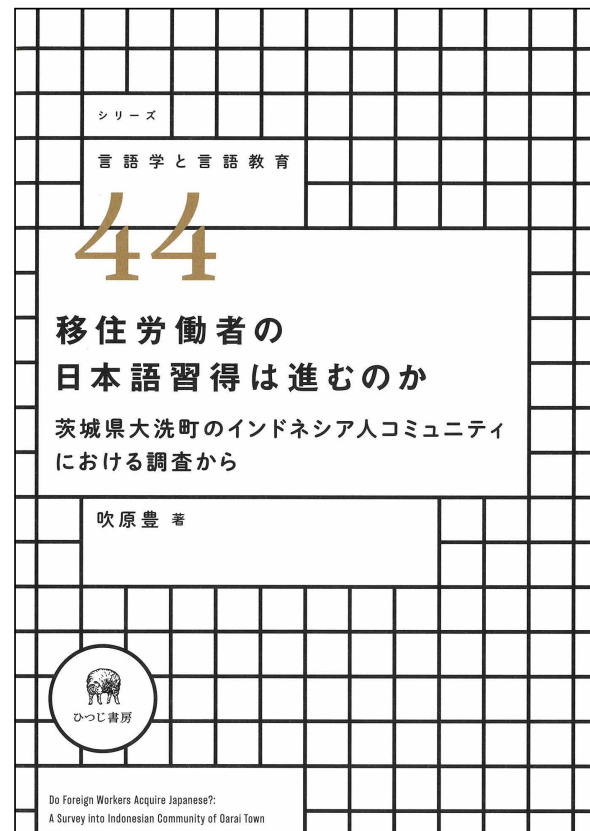
茨城県大洗町のインドネシア人 コミュニティにおける調査から

吹原豊著

定価 4,800 円＋税 A5 判上製カバー装 213 頁

日本語学習リソースへのアクセスが制限されている移住労働者の日本語習得過程はどのようなものか。本書は 10 年余におよぶフィールドワークと 100 名を超える OPI によるデータをもとに、第二言語環境における移住労働者の日本語習得の過程を、日本の地域社会に存在する複数のコミュニティへ参加していく中での状況的学習としてとらえ、分析を行った研究の成果である。第二言語習得研究者はもとより広く在日外国人問題に関心のある読者にご一読いただきたい。

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1096-3.htm>



ひつじ研究叢書（言語編） 第 160 巻

認知言語学の最前線

山梨正明教授古希記念論文集

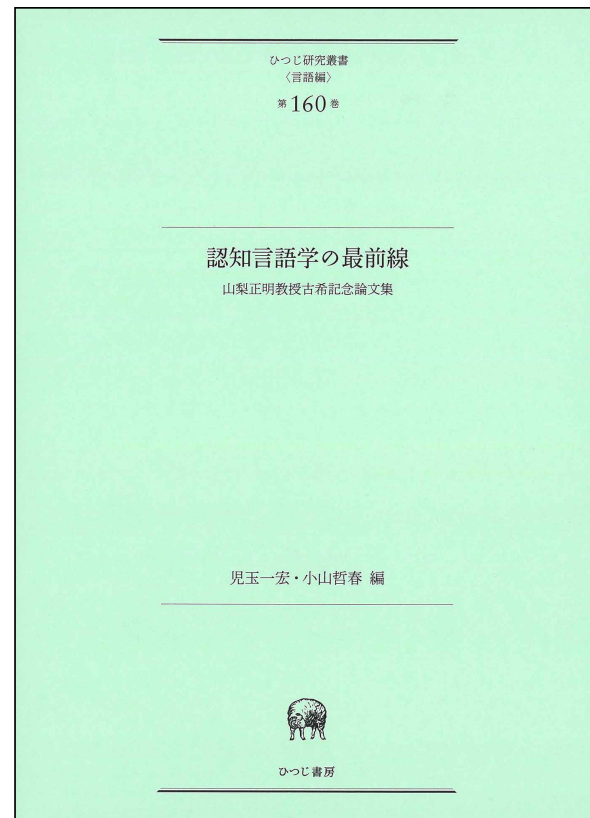
児玉一宏・小山哲春編

定価 9,800 円＋税 A5 判上製函入り 416 頁

長く日本の認知言語学研究を牽引する山梨正明教授の古希を記念して編まれた論文集。認知言語学の分野の最前線で活躍する研究者を執筆者に迎え、いま研究の最先端でどのようなことがおこっているかということを紹介するとともに、今後の課題を示し、これからの認知言語学研究の礎となる書。

執筆者：ロナルド・W・ラネカー、吉村公宏、高橋英光、野村益寛、中村渉、堀江薫・江俊賢、靱山洋介、菅井三実、谷口一美、早瀬尚子、大森文子、八木橋宏勇、松本曜、大月実、森雄一、篠原和子、堀田優子、渋谷良方

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-89476-993-9.htm>



ひつじ研究叢書（言語編） 第 162 巻

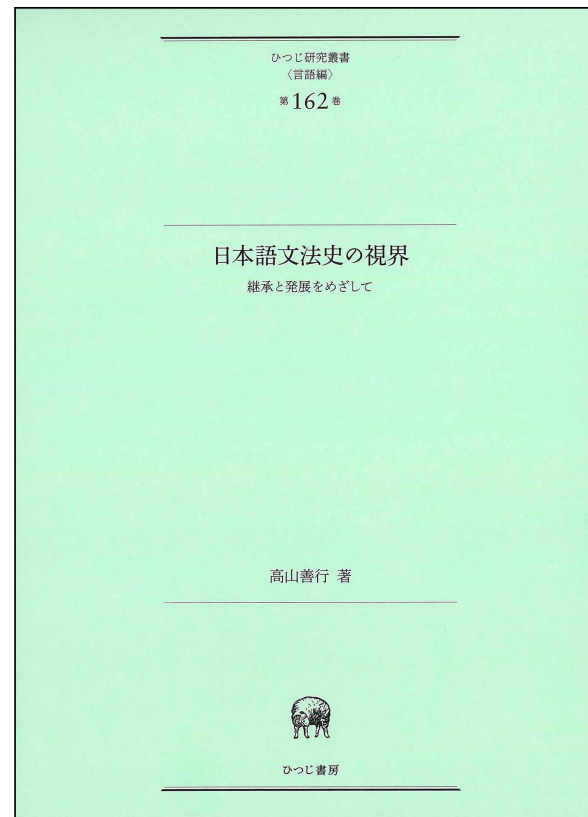
日本語文法史の視界

継承と発展をめざして

高山善行著

定価 6,400 円＋税 A5 判上製函入り 288 頁

本書は、日本語文法史の開拓的研究をまとめたものである。古代語の助動詞を中心に、現代語との対照の観点から基礎的、実証的研究を行なっている。「名詞句」「モダリティ」「疑問文」「配慮表現」を取り上げ、それぞれの研究において新しい視点、分析方法を提示する。また、「とりたてとモダリティ」「テンス・アスペクトとテキスト構造」など、研究テーマの接続も試みる。この分野の研究領域を見通し、領域拡張の基点となる書。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1008-6.htm>

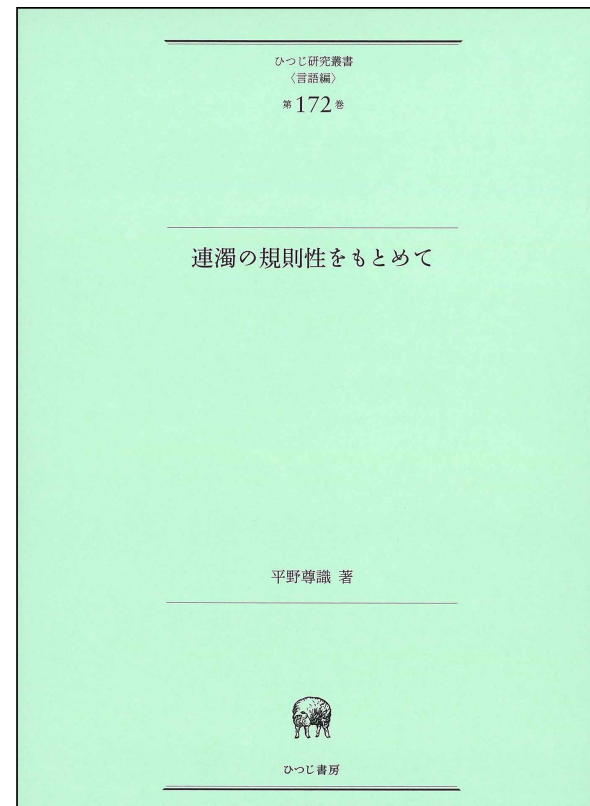
ひつじ研究叢書（言語編） 第 172 卷

連濁の規則性をもとめて

平野尊識著

定価 4,800 円＋税 A5 判上製函入り 216 頁

複合語における連濁形・非連濁形の生起を規則によって説明する試みである。その前提として、右枝条件など連濁を阻止する制約を再吟味するとともに、世界の言語の複合語の構成を概観した。複合語化には前項と後項を結び付ける要素の存在が必要なこと、このような要素はかつて日本語にも存在し、それが連濁の発生へと繋がったことを指摘した。また、規則化の問題点が明らかになったことから、連濁研究の今後の方向性を示したと言える。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1019-2.htm>

ひつじ研究叢書（言語編） 第 173 巻

語法と理論との 接続をめざして

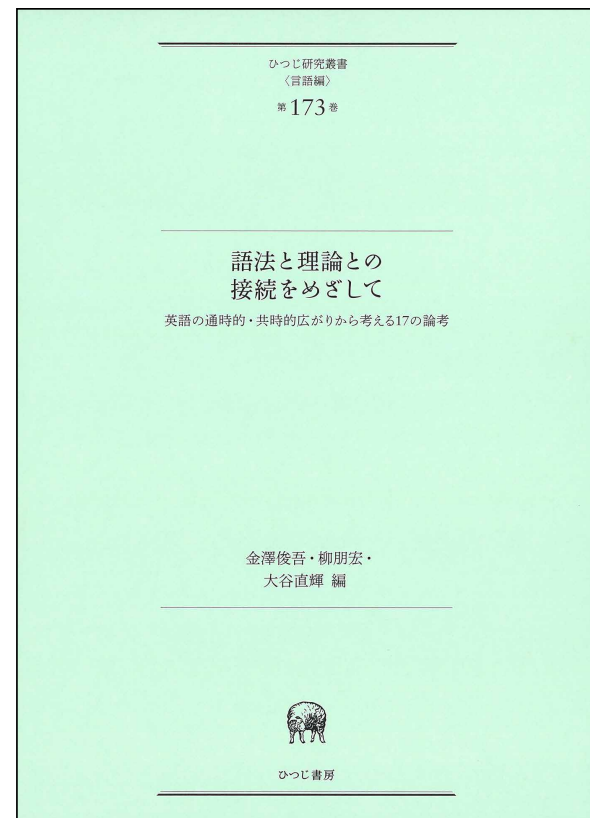
英語の通時的・共時的広がりから考える
17 の論考

金澤俊吾・柳朋宏・大谷直輝編

定価 6,000 円＋税 A5 判上製函入り 384 頁

本書は、英語における様々な言語現象に対して、共時的・通時的な側面から、正確に記述し、理論的な説明を行った論考を 17 編収録した論文集である。どの論考においても、語・句・構文・談話レベルにわたる様々な語法に対して、記述的にも理論的にもバランスのとれた分析を行うことで、英語における語法研究と理論研究の懸け橋となる 1 冊である。

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1062-8.htm>



ひつじ研究叢書（言語編） 第 175 巻

テキスト語彙論

テキストの中でみる

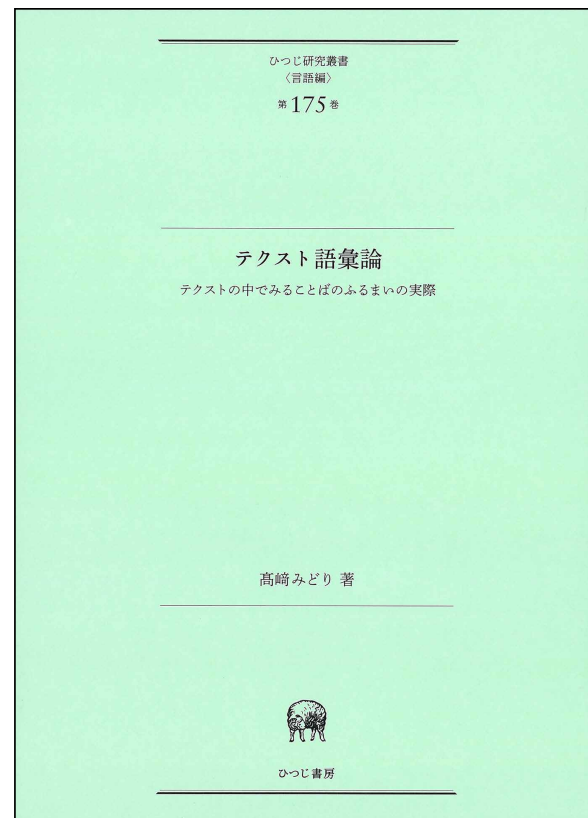
ことばのふるまいの実際

高崎みどり著

定価 5,800 円＋税 A5 判上製函入り 248 頁

本書は、実際のテキストの中での語の働き・ふるまいを観察し、テキストの展開と関係づけて論じるテキスト分析をめざしている。“テキスト構成”や“語彙的結束性”といったテキスト分析の概念を、語の辞書的“意味”の捉え直しや、近代語テキストにおいて重要性を増す“漢語”や“名詞”の役割、コ系やド系指示語の機能の再発見等と関連づけて具体的に論じ、文体論や CDA（批判的ディスコース分析）にも目配りしている。

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1054-3.htm>



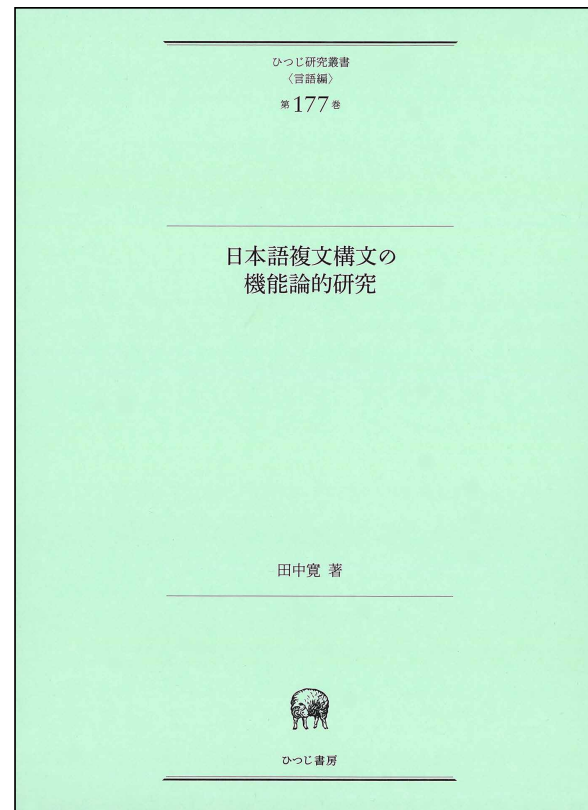
ひつじ研究叢書（言語編） 第177巻

日本語複文構文の 機能論的研究

田中寛著

定価 8,800 円＋税 A5 判上製函入り 434 頁

日本語の複文を構文の複合体としてとらえ、その談話環境及び展開の諸相を機能論的角度から論じた。ナラを始めとする条件構文の体系的見直し、動詞の接続辞表現、トアッテとニアッテ、ダケニとダケアッテの意義づけを行うほか、ナカ時間節の事態誘導的機能に深く関与する点、形態的機能的に多岐にわたる比較・並列・対比表現の考察などを加える。『日本語複文表現の研究』、『複合辞からみた日本語文法の研究』に続く複文研究の集大成。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1057-4.htm>

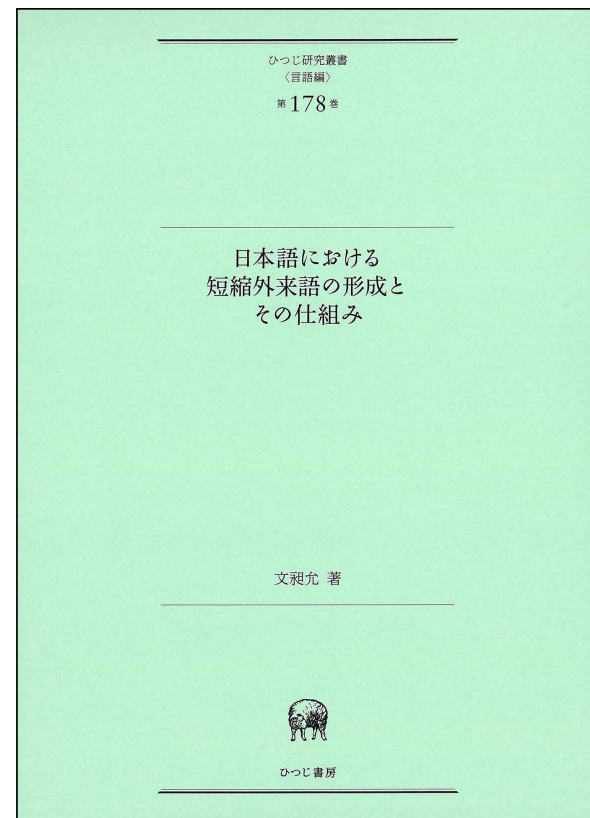
ひつじ研究叢書（言語編） 第 178 巻

日本語における 短縮外来語の形成とその仕組み

文昶允著

定価 5,000 円＋税 A5 判上製函入り 164 頁

本書は、複合外来語を元にする短縮語形成（例えば「デジタル・カメラ」が「デジカメ」となる現象）の仕組みについて扱うものである。先行研究では、専ら理論的な分析がなされている一方で、その説明に実証的な裏付けは与えられていない。本書では、データベースの分析及び実験により、短縮語形成を制御する要因を明らかにする。具体的には、音韻的要因（音節構造や同音連続）に加え、言語使用者の選好傾向が影響していることを主張する。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1061-1.htm>

ひつじ研究叢書（言語編） 第 179 巻

壁塗り代換をはじめとする 格体制の交替現象の研究

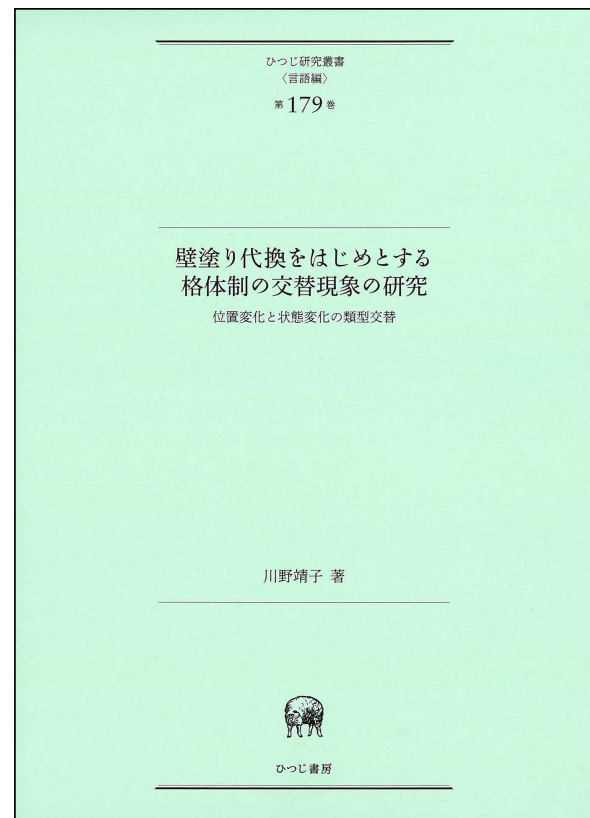
位置変化と状態変化の類型交替

川野靖子著

定価 5,800 円＋税 A5 判上製函入り 296 頁

「壁にペンキを塗る／壁をペンキで塗る」のような格体制の交替現象は、壁塗り代換と呼ばれ広く知られているが、この現象はどのような仕組みで起こるのか。本書では、壁塗り代換とその関連現象を体系的に記述し、「意味類型の階層モデル」を用いて成立原理の統一的な説明を試みる。英語の locative alternation 研究との比較、ヴォイスや多義語との原理的な相違にも議論が及ぶ。一冊まるごと現代日本語の壁塗り代換を論じた、初の研究書。

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1062-8.htm>



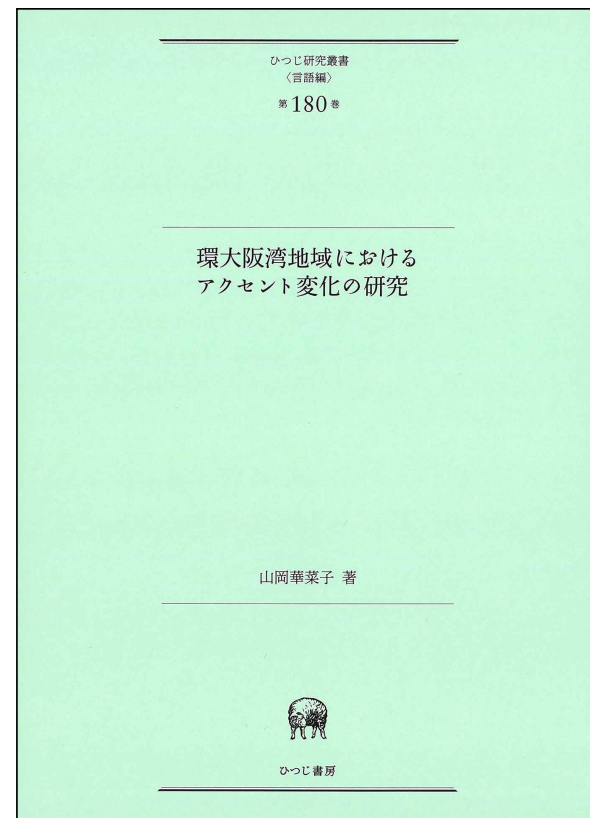
ひつじ研究叢書（言語編） 第 180 巻

環大阪湾地域における アクセント変化の研究

山岡華菜子著

定価 6,800 円＋税 A5 判上製函入り 258 頁

京阪式アクセントはアクセント研究の中心をなしてきた分野であるが、その中心の京都から諸地域に範囲を広げると、あまり注目されてこなかった地域や興味深いアクセント変化が観察される。本書では、淡路、明石、鳴門、岸和田、和歌山県橋本、高知などの環大阪湾地域のアクセントやアクセント変化の傾向を、筆者の調査の結果を基に、アクセント史もふまえ明らかにする。また、その特徴を京阪式アクセントの史的変遷の上に位置づける。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1063-5.htm>

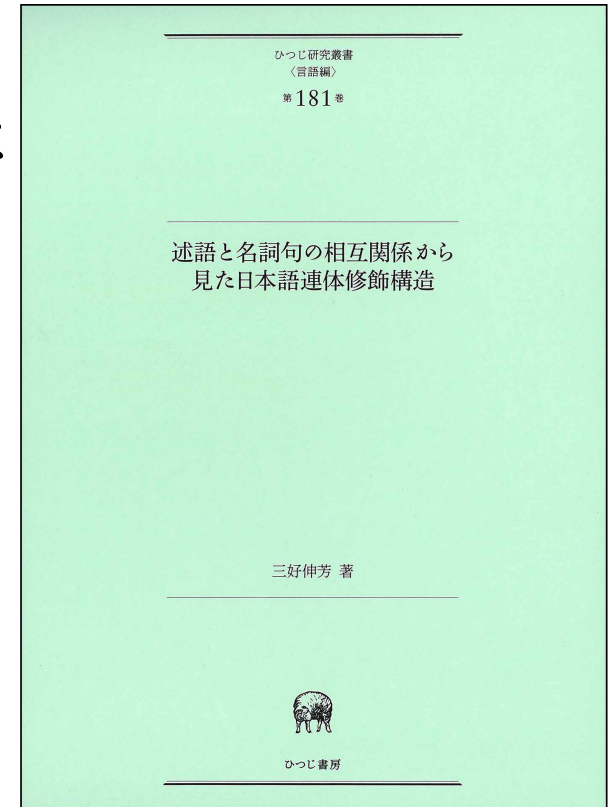
ひつじ研究叢書（言語編） 第 181 巻

述語と名詞句の相互関係から見た 日本語連体修飾構造

三好伸芳著

定価 7,000 円＋税 A5 判上製函入り 284 頁

従来、連体修飾要素の機能は被修飾名詞句の指示性によって決定されるとされ、「定／不定」といった区別が素朴に連体修飾構造の分析に適用されることが多かった。しかし、実際には、そのような一般化に当てはまらない例が体系的に存在する。本書では、日本語の連体修飾構造に見られるさまざまな文法的振る舞いの包括的分析を通じ、連体修飾要素の機能、述語の内包性、名詞句の指示性といった意味論的な概念について、新たな理論的枠組みの提示を試みる。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1064-2.htm>

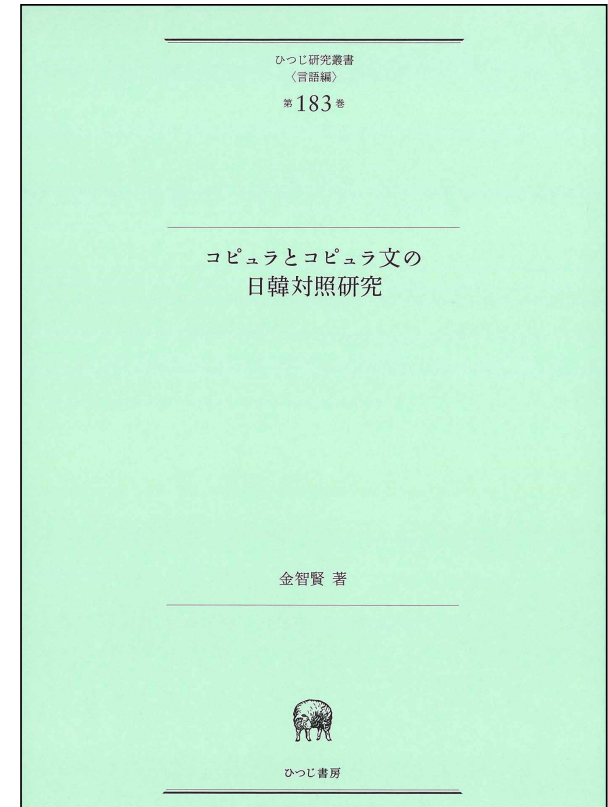
ひつじ研究叢書（言語編） 第183巻

コピュラとコピュラ文の 日韓対照研究

金智賢著

定価 7,300 円＋税 A5 判上製函入り 296 頁

本書は、現代日本語と韓国語の多様なコピュラ文の対照分析を通じ、両言語のコピュラ構造並びにコピュラ形式「だ」「ita」の特徴を明らかにしようとするものである。基本型コピュラ文の意味論的分析をはじめ、一項名詞文、ウナギ文、動作性名詞述語文、拡張型コピュラ文、分裂文、さらに、コピュラ及び属格助詞に関わる名詞修飾構造等を対照的に取り上げることで、日韓のコピュラやコピュラ文の根本的かつ総体的な理解に迫る。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1066-6.htm>

ひつじ研究叢書（言語編） 第184巻

現代日本語の 「ハズダ」の研究

朴天弘著

定価 6,700 円＋税 A5 判上製函入り 296 頁

現代日本語の「ハズダ」について、様々な用法を細く分類するだけでは、「ハズダ」の本質が見えにくくなる恐れがある。本書では、「話し手が持っているある情報（知識）に対して、それに反する、またはギャップが感じられる状況が起きる場合」という「ハズダ」の使用条件を提示し、「知識確認」という機能が「ハズダ」の意味機能であることを新たに導入することで「ハズダ」の解釈に統一的な答えを見出した。

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1083-3.htm>

